

意到随筆

取締役最高投資責任者 草刈 貴弘

台風15号、19号、その後も続く豪雨災害により被害を受けた皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。今回の台風は大型であり、非常に強力なまま首都圏を直撃し甚大な被害をもたらしました。広域に被害が及び、突風による倒壊、河川の堤防決壊に伴う浸水被害、土砂崩れ、東京湾における貨物船の沈没や下水、がれきによる東京湾の汚れなど、各地で未だにその被害の爪痕が残っています。近年は各地でこのような自然災害が過去と比べて多発しているなど感じるのは私だけではないでしょう。ちょうど先月には地球温暖化についての議論が国連でなされ、16歳の少女のスピーチは世界に衝撃を与えていました。それによって気候変動が与える影響に興味を持つ人が増えているようで、改めて考えるきっかけとなり、実際の災害を目前にするとともにや無視できないレベルになっているのではないかと思います。地球温暖化と気候変動の因果関係は科学的に証明されているわけではないのですが、実際の肌感覚で過去の気候とずいぶん変化していると感じます。気候は人間の生活に影響を与えますから、経済に直接関わってきます。つまり、気候変動によって経済活動が変わる、あるいは起こりうるリスクを考えなければならぬ状況なのかもしれません。企業経営はもちろん、私たち個人の生活においても大きな問題です。

私が住んでいる関東が基準となってしまいますが、今年は梅雨明けが遅れ7月の後半まで涼しい夏でした。雨も多く天候がすっかりしないため、夏のレジャーへの影響が懸念されていました。夏物販売が冴えず、百貨店では日傘やサングラスが3割減。屋外レジャーの代表格であるプール(都内大手施設)では、来場者が対前年比で9割減というものでした。野菜の価格もキュウリやナスが東京都卸売市場で昨年と比較し5割高となり、食卓に打撃を与えました。ところが梅雨が明けた8月からは猛暑が続き、9月までも35度を超える日が連続しました。このようにあまりにも暑い日が続いたり、ゲリラ豪雨の威力を見たりすると、子供のころと気象が違っているなど感じます。猛暑と言えば昨年は40度を超える日があり、平均気温は1946年の統計開始以降、最も高かったそうです。気温が高すぎると今度は外出が控えめになり、やはり消費、レジャーへ影響してしまいます。気温は高すぎても低すぎても良くないということが分かります。

では実際に気温が高くなったことで天候にどのような変化がみ

られるのでしょうか。気象庁のHP「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」を見てみると30年間の変化が分かりやすく示されています。日本においてもこの期間に1時間で降水量が50mmを超える強雨が発生した回数が増えており、直近の10年間の平均発生回数は40年前からの10年間のものと比較して1.4倍に増えています。一方で降水量が1mm以上の日は減少しており、100年で10日程度減っています。一見矛盾しているような結果なのですが、これには気温の上昇がカギになります。中学生の理科を思い出してください。気温の上昇は空気の飽和水蒸気量を増加させることになります。容器が大きくなったとイメージすれば分かりやすいかもしれません。容器から溢れることで雨になると考えると、容量が増え蓄えられる量が増えたために降水日数が減ったということになります。ところが、蓄えられる水量が増えたことで、降った際の降水量が非常に多くなるので強雨の発生回数は増えているということなのです。実際の気象現象は、それ以外にも多くが絡んでいるのでそれほどシンプルなものではないですが。

先日の台風で北陸新幹線の車両基地が水没したり、工場の水門が水圧で破壊され浸水してしまったりしている映像を見て、これまでの対策では意味がないのではないかなと思うようになりました。米国ではハリケーンが大型化し、フロリダ州を中心に南部に大きな被害をもたらします。環境問題専門のコンサルティング会社の分析によると、実際の金融機関のデータをもとに作られたフロリダ州南部の住宅ローン10万件の合成ポートフォリオを分析した結果、今後20年間で洪水などによる損失が3倍になると予想しています。近年、発生が頻発しており、慢性的なリスクとして認識され始めていることが理由です。そうならば保険料は高騰し、デフォルトを引き起こす可能性が示唆され、資産価格の下落やデフォルト率の上昇、保険の引き受けリスクの上昇と住宅市場、金融市場に大きな足かせとなる可能性が問題視されています。これは日本でも同じで、異常気象による生活への影響を真剣に考えるべき時が来ているのかもしれません。

だからといって今をすべて否定するのではなく、確実に前進させるために何ができるのか。今後の10年20年30年を見据えたうえで、どんな世界となっているのか。想像を超える新たな解決策を期待しつつ、すでにある素晴らしい技術の組み合わせなど、人類の可能性に期待しています。